

日本看護系学会協議会よりの緊急メッセージ：「医療崩壊を防ぎ、人々の命と尊厳を守る」  
ために

地球規模の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の猛威は留まるところを知りません。都市以外の地域にも感染の拡大が続き、緊急事態宣言が全国に拡大されました。今、感染症との闘いは、大きな分岐点に立っています。命を守るために医療崩壊をどのように防げるのか、脅威に長期間さらされている人々や社会がどのように持ちこたえられるか、弱者の尊厳は守られているかなど、切実な緊急課題に対し、全国の看護・医療関係者は果敢に戦い続けています。

日本看護系学会協議会 (JANA) は、看護・医療の多様な分野を含む学術団体であり、47学会が連携・協働し活発な学術活動を推進しています。世界的危機の分岐点にある今、本協議会は、「医療崩壊を防ぎ、人々の命と尊厳を守る」ことをめざし、科学的な視点から、また、人や社会が直面している現状や経験に目を向けることを通して、有効な感染症対策のあり方に関する検討を進めます。そのために、会員学会、看護職、医療職、保健・医療施設、行政、政府、そして社会の人々に対して、次の緊急メッセージを発信し、連携・協力を求めるものです。

1. 看護系学会は、COVID-19対策に関する有用な情報を集約・検討し、医療現場や社会で活用しやすい内容として発信を行います。JANAは各学会よりの情報をとりまとめ、ウェブサイトで<http://www.jana-office.com/fatality/covid-19/>より公表・更新します。看護職、医療職のみならず、広く社会の皆様に活用頂きたいと願うものです。
2. 感染症予防、治療に臨んでいる看護職、医療者に対し、マスクや防護服、消毒資材等の確保により、彼らの安全を守るための施策を政府に求めます。
3. 院内感染の予防、医療崩壊の防止の観点から、感染の有無を判定するPCR検査数を増加させるとともに、より効果的な検査体制システムを再検討することを政府、行政に求めます。
4. 感染への脅威と過度のストレスに晒されている看護職、医療職が疲弊し、使命感に押しつぶされないう労働環境の改善、後方支援体制ならびに心身のサポート体制の整備が急務となっています。国および地方自治体においてCOVID-19対策に応じた医療体制の整備、看護職、医療職の支援体制の強化を求めるとともに、加盟学会それぞれが、可能な支援を担って参ります。
5. COVID-19の正体の解明、予防法・治療法の確立、セルフケアやリスクマネジメントの確立をめざし、学術団体は、COVID-19についてあらゆる側面から徹底的に分析・検証し、感染爆発を防ぐための対策を練り上げることが急務です。看護系学会は、専門分野の側面から組織的に継続してデータの収集・追跡を行うとともに看護学の視点から研究に取り組みます。

6. COVID-19のような大規模感染症は今後も繰り返される可能性があります。米国では、国民の健康・福祉に脅威となる感染症流行に際して、連邦政府機関であるCDC（Centers for Disease Control and Prevention）が、国内外を問わず現地で調査を行い、対策立案・実施、助言などを行っています。今後、感染症対策を強力に押し進めることのできる疾病予防情報センター（日本版CDC）の創設が望まれ、看護学はその一翼を担う必要があると考えます。

7. 看護学は世界の人々の健康と安寧をめざし発展を遂げてきました。世界的な危機にある中、社会の一人一人の生存・生活・尊厳が守られ、希望をもち、未来に向けて歩むことができるよう、看護界が一致団結してCOVID-19に対する対応策を検討してく所存です。

2020年4月17日

一般社団法人 日本看護系学会協議会  
会長 小松 浩子